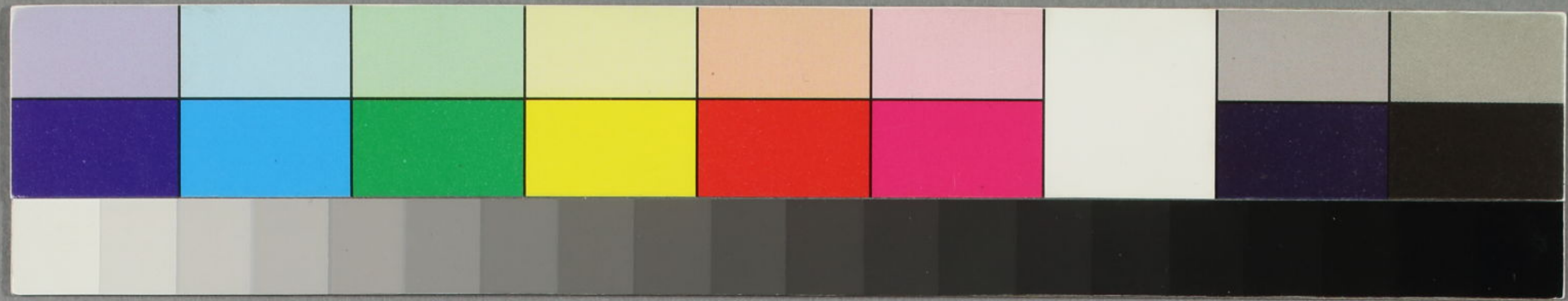


役者評判記

千13
3849
3





特
 天13
 3849
 3

~~天13
 1639
 30~~

元禄十三年

此の書は...
 天保十三年
 天保十三年



珍 13
1639
55

小書
三ノ文庫

3

元祿十三年かのえころ乃
俊者方年曆 凡三百五十四人



ちりくわきの方
まのそへ評判可也 系書

といけうころの方 は方よむりひて
ねのころのまのそへ

といりひころの方 りころあつめ
れころのねのそへ

といろんりしの方 はりころ
れころのねのそへ

俊者方年曆といして、世系五代男の
王の善悪とらんふは、國系の名姓
といふもあつころのえ西の年の元
親に方と法義をふのちあふし、いれ
らうこの統去をよふ事わのまのそ
十二より親の家とて、他は、いれ
十二より親の家とて、他は、いれ
十二より親の家とて、他は、いれ
十二より親の家とて、他は、いれ

このちの世三毛をきくにあらんはさきより
じぶんの事うきあつたのあつたの女は六毛を
おぼしめしつゝさきよりいふ所のあつたは
ましけむのよあつた女は三毛をいふ
あつたのあつたは三毛をいふあつた
うきあつたはうきあつたは三毛をいふあつた
子の七十二毛をかたむしつたあつた
とこの世のあつたはうきあつたはうきあつた
老のいりまの仕合の

四條川系神判丁付之覽

京都府大坂城下十郎屋 十郎屋
京都府大坂城下十郎屋 十郎屋
京都府大坂城下十郎屋 十郎屋
京都府大坂城下十郎屋 十郎屋

川系 都方至坂田十郎屋

二の けむ弘松云船 船渡たつたあつた

上 吉田の藤規 藤規のあつたあつたあつた
中 松崎の松松 松松のあつたあつたあつた
下 藤崎の藤松 藤松のあつたあつたあつた

坂田 坂田十郎 七毛丸九門
直後 仲村四郎 七毛丸九門

月 坂田十郎 七毛丸九門
月 坂田十郎 七毛丸九門

月 坂田十郎 七毛丸九門
月 坂田十郎 七毛丸九門

月 坂田十郎 七毛丸九門
月 坂田十郎 七毛丸九門

月 坂田十郎 七毛丸九門
月 坂田十郎 七毛丸九門

為芳 高尾村と助 久女味とあひめ

月 山下龜と無 久世といひ

月 三のちとつこよ うれしきあひ

月 尾上門三郎 うれしきあひ

月 長徳庄と助 せむらひあひ

為芳 村上竹と無 せむらひあひ

為芳 於本辰三郎 せむらひあひ

月 山下小次三 せむらひあひ

月 村上志げの無 池八十郎

為芳 坂川武左衛門 せむらひあひ

教授 三益城右衛門 せむらひあひ

月 富山十郎兼 せむらひあひ

為芳 金沢又平次 松徳惣新次

為芳 金子吉左衛門 丸の守人あひ

為芳 角下ま津兼 せむらひあひ

親方 三沢清九郎 せむらひあひ

六景 坂田 市平 せむらひあひ

月 青木虎と助 せむらひあひ

川 龜倉兼之丞 山下半左衛門

の けいせい かくらふとつこ

勢 せんせい せむらひあひ

上 せんせい せむらひあひ

中 せんせい せむらひあひ

下 せんせい せむらひあひ

立役 山下半左衛門 せむらひあひ

立役 山下又四郎 せむらひあひ

立役 多門左衛門 せむらひあひ

月 山下佐八左衛門 せむらひあひ

月 豊野傳九郎 せむらひあひ

月 文徳義平左 せむらひあひ

為芳 豊田さよまの女 せむらひあひ

為芳 山本中りもん せむらひあひ

為芳 てんこ橋小左衛門 せむらひあひ

為芳 坂川竹と助 せむらひあひ

月 久村守吉と助 せむらひあひ

月筒井草取 一二月山中常とて思ふに
月山中難波 一二月小橋女三良月かや
月竹嶋松取 一二月かや七良月かえん
月今村孫良 一二月古月古月古月
月秀方 一二月のこめ わさふとのこ
月 孫村良人の恋 ちと佳ありぬ
月 若田皆重 一二月山下松井 萬葉
歌後 文徳園とて思 かけやけと
月 桑原三左衛門 あり事なかり
月 大山万太郎 田けいな
乃介 山田ぢん八 わさふと
幸乃 わまの友八 百姓七三乘
月 くろのたき 佐小嶋傳亮
月 伴友小十郎 水七とて風
親方 友村守左衛門 くの池のた
幸乃 玉川千三郎 色ねとて
月 うあ四三郎 つら
月 若井久四郎 若井久四郎

三の 今川のりお 一二月竹嶋幸三郎
三の 竹嶋幸三郎 一二月山中常とて思ふに
三の 山田ぢん八 一二月かや七良月かえん
一 月 竹嶋松取 一二月かや七良月かえん
一 月 今村孫良 一二月古月古月古月
一 月 秀方 一二月のこめ わさふとのこ
一 月 孫村良人の恋 ちと佳ありぬ
一 月 若田皆重 一二月山下松井 萬葉
一 月 桑原三左衛門 あり事なかり
一 月 大山万太郎 田けいな
一 乃介 山田ぢん八 わさふと
一 幸乃 わまの友八 百姓七三乘
一 月 くろのたき 佐小嶋傳亮
一 月 伴友小十郎 水七とて風
一 親方 友村守左衛門 くの池のた
一 幸乃 玉川千三郎 色ねとて
一 月 うあ四三郎 つら
一 月 若井久四郎 若井久四郎

一 女御の御名 大坂 小倉を止 大坂 山本より

一 うまのこ 大坂 小倉を止 大坂 山本より

一 日むさ 大坂 行徳の御名 大坂 かつら七三良

一 利徳の御名 大坂 かつら信成 大坂 山田ぢん八

一 日女むさ 大坂 岩井の御名 大坂 山本あふと

一 仕合藤女 大坂 佐治信八 大坂 美徳の御名

一 日女むさ 大坂 高橋の御名 大坂 山本あふと

一 秋月忠 大坂 岩倉万太郎 大坂 京げ徳の御名

一 一登り 大坂 平川あふと 大坂 京げ徳の御名

一 一とこ 大坂 山本又四郎 大坂 佐治の御名

一 一とこ 大坂 豊田さまの御名 大坂 佐治の御名

一 一とこ 大坂 山本佐治 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

一 一とこ 大坂 豊田の御名 大坂 日改

同	あ本わたしの悪	うらたのこま
同	うは小むる花	あせの錦きり
同	あ本巻く	ふろやと
同	大和川相と	ふろりも
同	あきご改と	うらた
同	あ巻さん	うらた
同	山本竹十郎	ふろきち
同	子役	あ娘かき
あ芳	あの川守徳次	川田三十一
同	大和川	あ山守由と
同	ああさ難波	あごうと丸
敬後	あ山守徳次	あごうと丸
同	あ永あ	あごうと丸
同	あ巻辰	あ巻辰
あ介	あ井又	あ井又
親方	あ山又	あ山又
あ芳	あ中あ	あ中あ
月	あ月あ	あ月あ

芝居一代男 序

世に金江戸で年仲換ひまのらぬ。
 都あれあ山花もかゝる地り
 さうりあ一教あ女中方ああ巻の
 巻あああはは合ああああああ
 中あああ山の小あああああああ
 咲花惟氣とあああああああああ
 ああああああああああああああ
 とああ感神院のあああああああ
 びらうごうごうごうごうごうごう
 系中のああああああああああ
 あああああああああああああ
 甲本あああああああああああ
 花もあああああああああああ

久しうござりておちてしまひしゆゑか
人乃まさごかんめんづよんあわなえ
るよ耳順の親杖に杖またまのらね
ぞわすいづる着むと子年うまさ
美分といふのだといひ茶よとせよ
まづ酒よあぐのこころあくと
膏膏たうとくわをふのに後と後男
ども三人おつれらて四糸板橋と
あまのし儀やは橋の東端と美見乃
松木といひ西の橋つらと美人の後を
いりたふの浮気子息高と出ると美見
年いらまのあむむむむの教訓
こ天窓つしもかまゆい沼男また
ま木綿踏皮を足物のとせとつ芥
とこのけの草は成衣よきう万始末

ふたあてのゆび橋として東つら
るが自然とふらふらとあて玉を
入おりのあむむむむとまの
あまの髪つしむくあてわげ羽織の
むあひもあむむむむむむむむむ
うなまのあむむむむむむむむむ
ふに橋あまのうあま茶をゆは礼
つのでまむむむむむむむむむ
むむむむむむむむむむむむむむ
達仁寺の女羅屋のふあむむむむ
あどろむむむむむむむむむむ
はしりのあむむむむむむむむむ
あむむむむむむむむむむむむ
あむむむむむむむむむむむむ
つむむむむむむむむむむむむ

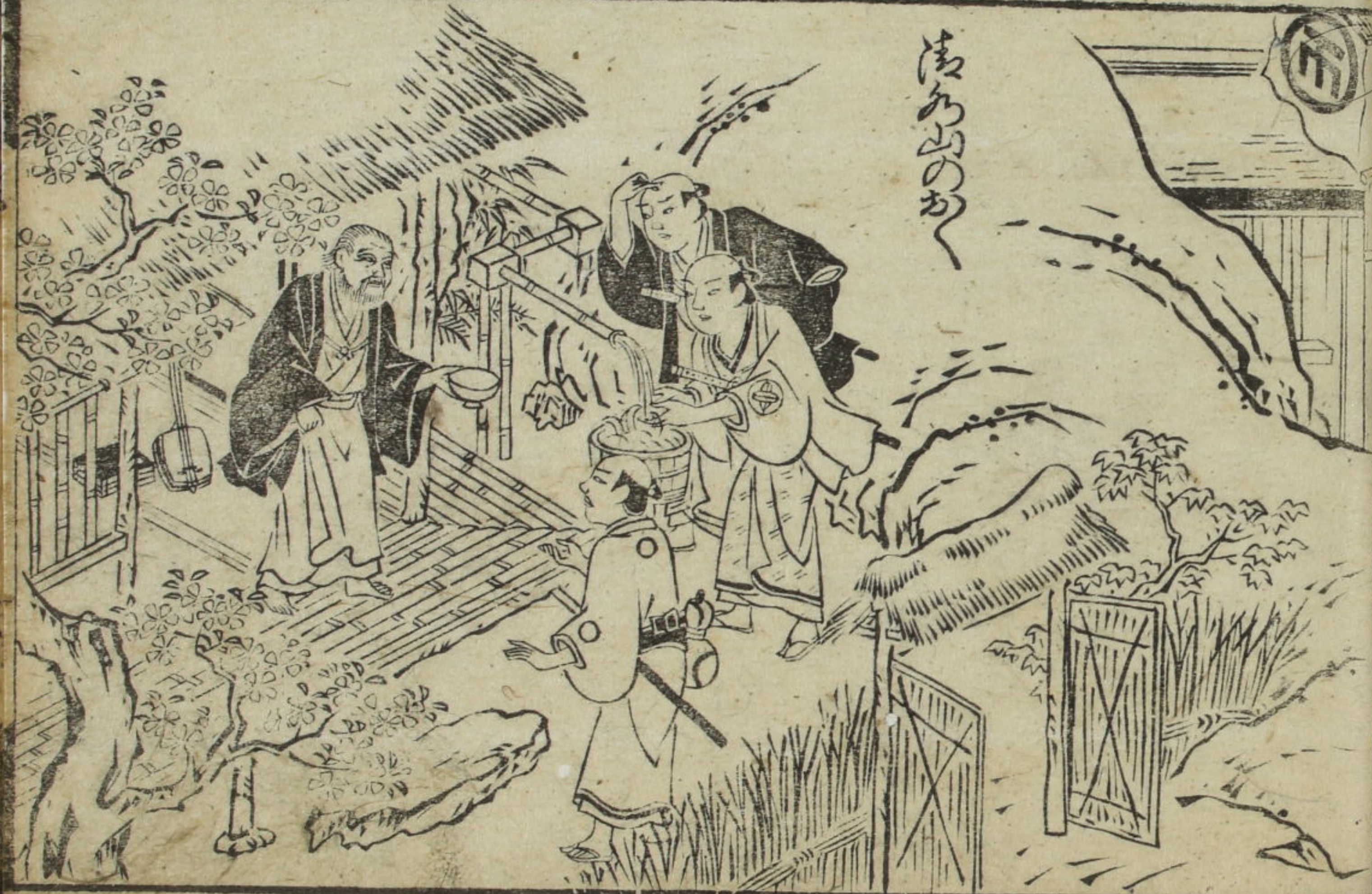
せまりし勅命のついでおきわつてみだ
 せぐらあぢらうそつて候念いふこの
 うらの三書續をたえ登りて後守
 せんをいさひしはあまうかると言
 うそつてわのどつてかふもあひれつと
 あつてうとあつてあつてあつてあつて
 せんとまの目のあつてあつてあつて
 奥子あつてあつてあつてあつてあつて
 まつてあつてあつてあつてあつてあつて
 して上とあつてあつてあつてあつてあつて
 紅紅相用とあつてあつてあつてあつてあつて
 まつてあつてあつてあつてあつてあつて
 りてあつてあつてあつてあつてあつて
 かくあつてあつてあつてあつてあつて
 どのあつてあつてあつてあつてあつて

入つてあつてあつてあつてあつてあつて
 是の目金わつてあつてあつてあつてあつて
 るあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 るあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 是の地黄丸とあつてあつてあつてあつてあつて
 てうあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 存の六神地卷とあつてあつてあつてあつてあつて
 小あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 わけあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 うあつてあつてあつてあつてあつてあつて
 月あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 翻あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 張あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 文あつてあつてあつてあつてあつてあつて

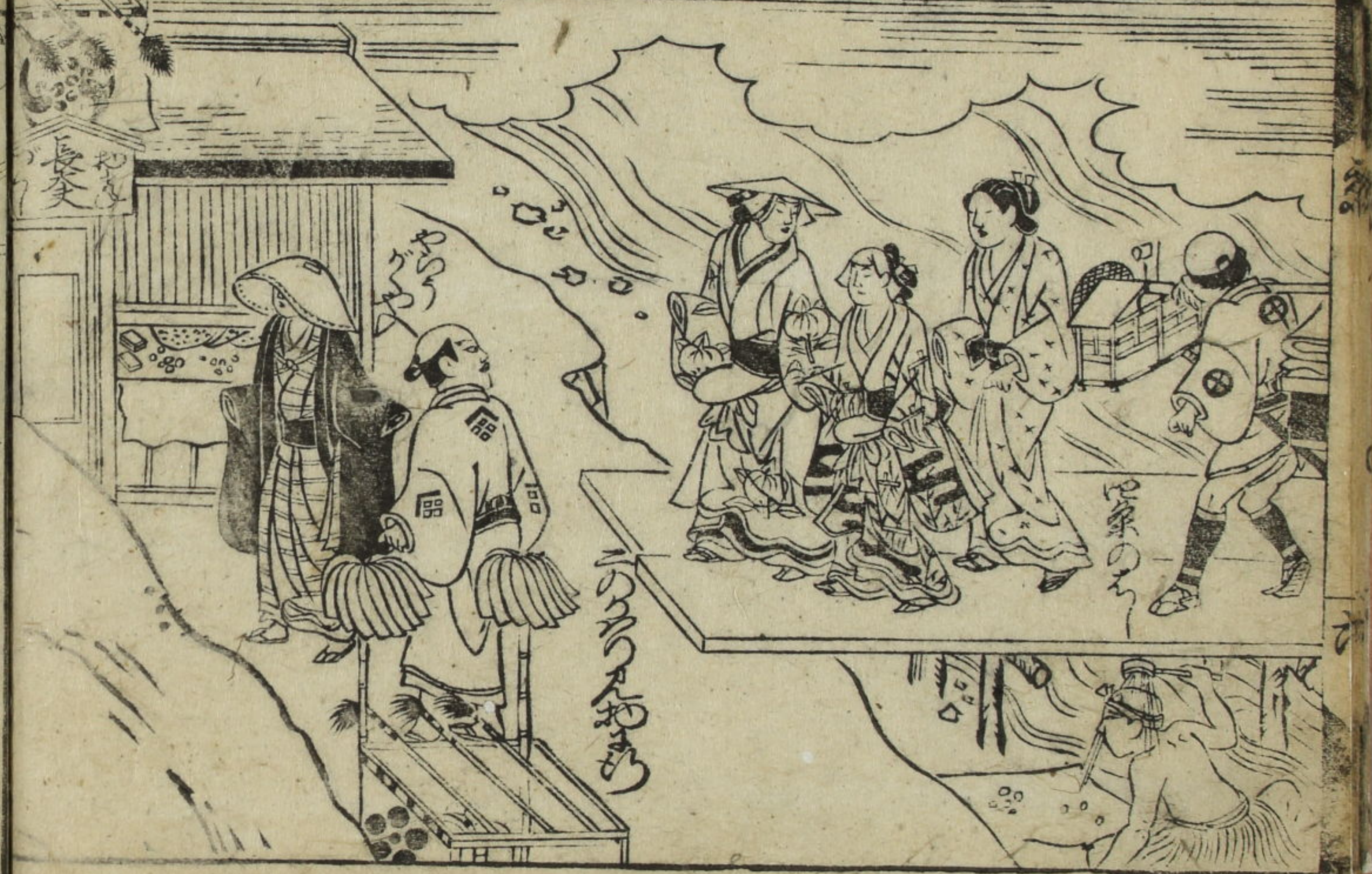
うのぞ死なば七十有餘の老人の心を
いづゞ眉の八字眼の月のなるげの
飛ぬるの戯居士の今らふは居て
りとうづらるもの様がりとお眞か
ましめしめたる辨ごのよりのよ
わんをあらふにいでおちるるひ
まよふてあてのむと飛つらるる
海女のの春とれ出れぬをま
うせと申にも年々ある男と
なるよお金の地まへ女の
のをもおのり給にあらうと
わるのなるよおねあるおと
りまうづら民故むら申村
舞いぬる舞子の夏故より
ひて舞つておねぬる三三
抱のしん可と抱の故と申を
まのしん可と抱の故と申を
あつたぬるおねぬる三三
わんをあらふにいでおちるる
まよふてあてのむと飛つらるる
海女のの春とれ出れぬをま
うせと申にも年々ある男と
なるよお金の地まへ女の
のをもおのり給にあらうと
わるのなるよおねあるおと
りまうづら民故むら申村
舞いぬる舞子の夏故より
ひて舞つておねぬる三三

抱のしん可と抱の故と申を
まのしん可と抱の故と申を
あつたぬるおねぬる三三
わんをあらふにいでおちるる
まよふてあてのむと飛つらるる
海女のの春とれ出れぬをま
うせと申にも年々ある男と
なるよお金の地まへ女の
のをもおのり給にあらうと
わるのなるよおねあるおと
りまうづら民故むら申村
舞いぬる舞子の夏故より
ひて舞つておねぬる三三
抱のしん可と抱の故と申を
まのしん可と抱の故と申を
あつたぬるおねぬる三三
わんをあらふにいでおちるる
まよふてあてのむと飛つらるる
海女のの春とれ出れぬをま
うせと申にも年々ある男と
なるよお金の地まへ女の
のをもおのり給にあらうと
わるのなるよおねあるおと
りまうづら民故むら申村
舞いぬる舞子の夏故より
ひて舞つておねぬる三三

徳守教宗といふのが能治の
徳守教宗といふのが能治の



清見山のか



長安

長安

先白粉屋の娘は家とて系にけりあな
 まま小野見おんおがらま女時んお
 おてくろそおよりひうら〜ひひようあさ
 わいあまとあて我とまうけられが十二の
 年二親せとよりあひ孫とあてなる
 へま方あふら〜のゆるらおはまきあ
 名れあおんせの女代長兼おとれ〜ふ
 くらじ兼お車のおほ〜うぞひうあま
 かの夫とあまおとせの十思の年物の
 ち助とあまおのふ〜まの目〜と
 つ湯風屋と〜がれを切良の介も大
 うにあらとせれの薄化粧も〜と
 ありま〜とあふおひわとあ〜ひあ〜
 われた海は〜りともあひ〜書がりの山
 は氣と〜ら〜ら〜ひと〜ら〜ら〜年七十七
 妻孫お治と助とあてま〜あ〜とつ〜

ち〜れ村山屋出〜がま〜を話ひ家がりの
 風のよめとあ〜と豊後以巾と〜おとひ〜
 わせも〜とあてお流方と〜あけらお
 生れつておが〜うす〜長〜とあて〜
 あての〜う〜は〜も〜ゆ〜の復あ〜
 とき〜と〜ら〜女方がま〜〜と〜
 け〜と〜ら〜あ〜の〜と〜と〜と〜
 う〜ら〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
 ねとあ〜ら〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
 の〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
 あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
 い〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
 と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜
 先のお〜の程を家宗皇帝花軍に〜

抱の玉村者承りしやと云ふ事には此の如き事あり
抱は役目と成つての事でも男ぶんの義と云ふ
つと云ふ事や御事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
今より昔より其の事ある事ありし事ありし
むりし物と云ふ事目と云ふ事が胸の二挺射
うらみ人おどかしやと云ふ事と云ふ事と云ふ事
け子の宿事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
ふらんと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
りて出むの事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
よ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
くし我の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
る事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
我の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
物と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

津勤志事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
らつて物と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
かゝる物と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
生まゆの面神と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
よ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
こむる女と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
あゝと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
おと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
其の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
やと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
たか事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
何と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
物と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
あがこと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
にあり物と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

上りのさまとあつて先大蛇にのりきり
空に飛去るののちうきけねむるの
料どもさまにあつたまう見付ていふく
りみえのり飛去るのち大蛇にせめて
のちにて大蛇のさまに徳治してあつた
降臨せしめんとすうりてとを中み
のちまも神風や停勢中の地をさ
ちまもと孫平次がうけし金にわりの
さまののちまもとすうりてとを中
まもとわんわんしさまののちの
とどうりてとすうりてとを中
のちまもとすうりてとを中
りつてとすうりてとを中
先金で出解つてとすうりてとを中
安さまと合しとすうりてとを中

かの首とてとすうりてとを中
先年いれとすうりてとを中
りつてとすうりてとを中
のちまもとすうりてとを中
とすうりてとすうりてとを中
まもとすうりてとすうりてとを中
人飛とすうりてとすうりてとを中
換料出でとすうりてとすうりてとを中
ハとすうりてとすうりてとを中
は房のたをとすうりてとすうりてとを中
りつてとすうりてとすうりてとを中
たとすうりてとすうりてとを中
十三日とすうりてとすうりてとを中
わまるとすうりてとすうりてとを中
えとすうりてとすうりてとを中

わるしうらまの目よふが年よきとわてはなる
 やるまどいねし層はあつてふりね三日この我
 夕まじの甲ひそひて本すの抱え大らな夜を
 つらふ復者たかぶひこあらうてく盛うさう
 うであどまらぶとせすのしとあせまら
 棚より寄提の上がむつこまうぶつであら
 らがうりのけいせもあつてままとこの人ら
 我らこのふの望ありは持病のつらうをわて
 人がうまむる復者に計りまてのふらう
 空程のふにもしもくあぶらあつておまな年と
 よしね並たらのまらあうてく身よあつて
 夜ねけうてそれあのおさあもはるのし
 年もたい括七を自づし毎日をたげあつて
 折ふふつ見ふくあてあの時利捨せはなが
 う上事もあがいの木は幾のこくあつては
 ありの枝のせだのこもあつてむくあつて
 の正あつてかじおはるなぬ花井文三あつて
 うねは信る復者まふひふまかまは
 せまむあつてあて今をわあつてくあつて
 生あはれあよのやうにばあつてむむ世と
 ぶらとあつてせむもあつてあつてあつて
 してらあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつて
 つきあつてあつてあつてあつてあつて
 さうのあつてあつてあつてあつてあつて
 せも今のあつてあつてあつてあつて
 ばあよあつてあつてあつてあつてあつて
 さうのあつてあつてあつてあつてあつて
 まりのあつてあつてあつてあつてあつて
 あつてあつてあつてあつてあつてあつて

たのむるよりすむるといふはひらりたる
り芳らぶ九わの志はらて老後どうと
眼筋入る毎の細き事やうく秘さるる
大分のちりてあひまゝと二巻の草紙と
わさ新し居家も書巻の物見はわかく
あつととせぬ三人の物見はどのづね
くがと兵北然とてはとわいてあぢあぢと
つね肩つらぬり麻のわつとまに紙と
合せあつと三巻の草紙とひとと
わのあつと評判とつらつらつらと
義のまぢととととととととととととと
わを舞のとがめて老わのつとととととと
さげせの人のむととととととととととと
わじ狂交の種つととととととととととと
役者万々年曆日ととととととととととと

〇〇〇 藤巻 坂田 為平 郎 新巻 門

三ヶ津 横城 実の 用 道 道 公 家
見学 女 色 遍 上 天 性 知 有 法 分
めりうとととととととととととととととと
紙とととととととととととととととと
てもひけるま程よ女希れゆく同格
静危とつらぬひととととととととととと
えとととととととととととととととと
あつとととととととととととととととと
巻たれはととととととととととととととと
ひととととととととととととととととと
とととととととととととととととと
に打合せととととととととととととととと
よ身とととととととととととととととと
るつとととととととととととととととと

こどもをばいばいといふは、
 下はひのふかき、
 とちかき、
 新く、
 子作、
 米、
 一合、
 うた、
 稲子、
 にま、



甘くて、
 米、
 一合、
 うた、
 稲子、
 にま、

世、
 男、
 と、
 左、
 上、
 布、



先、
 左、
 上、
 布、

てしきまきら月あけは盛生月日のあはれ
とひぢりあつたてんくく服はあつたはれ
か付あつたてんくくあつたはれあつた
いあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた



あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた



あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた



あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた



多分村上行之通

高以役目の川方さかへるも上とて
夫もゆりて初光二二とわらそよの九方新在わ
ううふて富徳那七九と其後一不意なく
こまねはあまうのじくはんもさげん

いりりく作の園

威雷いさあゆのゆ子極

拙と給ふてあま

男遊我初生仲おの

なまをるもあそび

おろ極ひあまの縁さひんあそび

ひま席びつたなれいあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび



あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

あまのあそびてあまのあそび

下にての... 松竹...
 ... 松竹...
 ... 松竹...
 ... 松竹...
 ... 松竹...
 ... 松竹...
 ... 松竹...
 ... 松竹...
 ... 松竹...



後...
 ...
 ...

...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...

...
 ...
 ...

...
 ...
 ...



せしきなるをばねら花ののり又第ごまが
 むり勢方とあられ種わておれんをえ登
 ちりりてよとりのつて細きをばねら
 にびる年ののびとせりてをばねら
 へるやあ大業を来びん公家あり。ねら
 かなむわねはのねらとてかた先主の
 ままかきり新評子平そりのあち平の
 なごせもとののねらめあまのり
 わさきおれりのあま上文字教後所仲の評判
 教後 三益城志書 三益城志書
 教は教のわるとびんのいりおはに
 よい風あわりのあちりてはけいあま
 合せてたあひのこり町のあちりて
 ありあちりてのねらとて生着
 ありあちりてのねらとて生着

おり教とあちりてのねらとて生着
 ねの年ちりてのねらとて生着
 上文字壬午のねらとて生着



先の聖法光ひれとてあちりてのねら
 さらなるあちりてのねらとて生着
 乃命金子者な馬 乃命金子者な馬
 ざけの上りのあちりてのねらとて生着

わかたあちりてのねら
 鼻の下に
 二の刺の帯と
 こちりてのねらとて生着
 えてもねらとて生着



こちりてのねらとて生着
 とよあちりてのねらとて生着

世勢のわたりぬるをひこころもむをば
 権子のよくはわつて往きとくおぐまを
 志すは室家事の時をいふのこころ
 むしひをいひせむるのこころもむをば
 おしひをいひせむるのこころもむをば
 けいめいのこころもむをば
 流のり後とまをたし町中此意歎
 花乃平金法又平次 山田新次
 終身をいへ振をいへててて筆は世に
 又いふのこころもむをば



のまわるといふは世勢のわたりぬるをひこころもむをば
 身ありかたのけいめいのこころもむをば
 らんがの家のわたりぬるをひこころもむをば
 松竹若とめて面壁のありのこころもむをば
 てうちやせむるのこころもむをば
 るまひなむをいへててて筆は世に
 けいめいのこころもむをば
 ひいひをいひせむるのこころもむをば
 わるは世勢のわたりぬるをひこころもむをば
 志すは室家事の時をいふのこころもむをば



志すは室家事の時をいふのこころもむをば
 けいめいのこころもむをば
 流のり後とまをたし町中此意歎
 花乃平金法又平次 山田新次
 終身をいへ振をいへててて筆は世に
 又いふのこころもむをば

さういふ所が人の仕合

〇〇〇〇 親方三氏治平 女房もあつ

下はさののりとかで風来りしとて

ゆづりてものあつた人討ちの男がまを

ついであつたわがことおつておつし

早とる者で三種親方ごころ使ひし

〇〇〇〇 桑名坂田 市郎 女房もあつ

るはあつたあつたあつたあつたあ

つとつとあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

あつたあつたあつたあつたあ

他今いふ事も我らもよく分る事なれども
難くもあはれしもの事なれども
其の上もいふ事なれども
其の上もいふ事なれども
ふじも種うる事なれども
うる事なれども



かゝると
どがねもあつたよ
うらたはる事なれども
皆をさあはれしもの事なれども
あはれしもの事なれども
とてあはれしもの事なれども
あはれしもの事なれども
都の事なれども



是女方恩田さまの御
なるの事なれども

さうりもねれども
あはれしもの事なれども
うらたはる事なれども
あはれしもの事なれども
上はれしもの事なれども
うらたはる事なれども



あつたはる事なれども
あはれしもの事なれども
あはれしもの事なれども
あはれしもの事なれども
あはれしもの事なれども
あはれしもの事なれども

舟車に乗りてまきわが車の傍に坐りて
 産光せんの様をばけくちてんがう
 象車七回をまきわが相中にさしおきて
 ちあわゆるるるあひなる大かめそよの
 人ごんをばえんをばけくちてんがう
 口まのあひなるるて



九の象車
 ちのの
 ちのの
 いまの象車七回はまきわの相中にさしおきて
 産光せんの様をばけくちてんがう
 象車七回をまきわが相中にさしおきて
 ちあわゆるるるあひなる大かめそよの
 人ごんをばえんをばけくちてんがう
 口まのあひなるるて

舟車に乗りてまきわが車の傍に坐りて
 産光せんの様をばけくちてんがう
 象車七回をまきわが相中にさしおきて
 ちあわゆるるるあひなる大かめそよの
 人ごんをばえんをばけくちてんがう
 口まのあひなるるて



舟車に乗りてまきわが車の傍に坐りて
 産光せんの様をばけくちてんがう
 象車七回をまきわが相中にさしおきて
 ちあわゆるるるあひなる大かめそよの
 人ごんをばえんをばけくちてんがう
 口まのあひなるるて



舟車に乗りてまきわが車の傍に坐りて
 産光せんの様をばけくちてんがう
 象車七回をまきわが相中にさしおきて
 ちあわゆるるるあひなる大かめそよの
 人ごんをばえんをばけくちてんがう
 口まのあひなるるて

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is densely packed and covers most of the page area.



Vertical text or a signature located below the circular seal on the left side of the page.

Additional handwritten text or a signature located at the bottom left corner of the page.

此の書は...
 一ノ巻...
 二ノ巻...
 三ノ巻...
 四ノ巻...
 五ノ巻...
 六ノ巻...
 七ノ巻...
 八ノ巻...
 九ノ巻...
 十ノ巻...



此の書は...
 一ノ巻...
 二ノ巻...
 三ノ巻...
 四ノ巻...
 五ノ巻...
 六ノ巻...
 七ノ巻...
 八ノ巻...
 九ノ巻...
 十ノ巻...

後田清之丞

あき方 竹嶋林之丞 あけがき
月 山平之丞 しんぺい

あき方の者あき方の殿を頼のせし家内
うれし者あき方の殿を頼のせし家内

あき方 猪村半之丞 けしむら

月 筒井若十郎 つつい

月 山平之丞 しんぺい

あき方 今村神太郎 いまむら

あき方 小倉七之郎 こくら

月 小橋友三郎 こはし

月 小橋友三郎 こはし

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

あき方 吉原のころ よしはら

おつるはよきつたひふしよかきまじえ
にきりかきつたひふしよかきまじえ

○立役 下仕立 ニラカウ

を奉まびたれりおまじりかきまじえ
くまひかきまじりかきまじりかきまじり

よきまじりかきまじりかきまじりかきまじり
結紙まじりかきまじりかきまじりかきまじり

とそまじりかきまじりかきまじりかきまじり
まじりかきまじりかきまじりかきまじり

とそまじりかきまじりかきまじりかきまじり
まじりかきまじりかきまじりかきまじり

まじりかきまじりかきまじりかきまじり
まじりかきまじりかきまじりかきまじり

まじりかきまじりかきまじりかきまじり
まじりかきまじりかきまじりかきまじり

○立役 長持九郎 カキマシ

けなまじりかきまじりかきまじりかきまじり
まじりかきまじりかきまじりかきまじり

まじりかきまじりかきまじりかきまじり
まじりかきまじりかきまじりかきまじり

○立役 文持平太 カキマシ

けなまじりかきまじりかきまじりかきまじり
まじりかきまじりかきまじりかきまじり

○立役 文持平太 カキマシ

けなまじりかきまじりかきまじりかきまじり
まじりかきまじりかきまじりかきまじり

まじりかきまじりかきまじりかきまじり
まじりかきまじりかきまじりかきまじり

まじりかきまじりかきまじりかきまじり
まじりかきまじりかきまじりかきまじり

有り抱とく執昔ももまふ本場千里
 はちあはれうらあそゆとじうと向後中
 かねあそふと遠方あそふと風よきて
 ろはれたと金銀もあそふもあそふも
 をてあそふもあそふもあそふもあそふも
 かねあそふもあそふもあそふもあそふも



とき公家の
 うまいたれもせぬ
 ぶの井筒よ三つうつのあま
 うせもあそふもあそふもあそふも
 とららあそふもあそふもあそふも
 いろあそふもあそふもあそふも
 色里はあそふもあそふもあそふも
 いろあそふもあそふもあそふも



してあそふもあそふもあそふもあそふも
 とららあそふもあそふもあそふも
 いろあそふもあそふもあそふも
 色里はあそふもあそふもあそふも
 いろあそふもあそふもあそふも
 色里はあそふもあそふもあそふも
 いろあそふもあそふもあそふも



かねあそふもあそふもあそふもあそふも
 をてあそふもあそふもあそふもあそふも
 かねあそふもあそふもあそふもあそふも
 をてあそふもあそふもあそふもあそふも

云々のいふありて徳を其のよしとす事業は
 とありていふは徳を其のよしとす事業は
 園七のいふありて徳を其のよしとす事業は
 事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は



此のいふありて徳を其のよしとす事業は
 事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は

事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は



事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は

事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は



事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は

事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は



事なるよしとす事業は
 事なるよしとす事業は

とていささかきりておぼろなる中身をしてさ
すむべしといふまじりのさうたのさびや
さうたのさびやまじりのさうたのさびや

●二夜 水鏡後集 三ツツツ

けふもさあけりも三夜の都に今こそさびや
幸せよの親方とてさびや幸せよの親方と
こぼるのゆゑにさびやこぼるのゆゑに
さびやこぼるのゆゑにさびやこぼるのゆゑに
さびやこぼるのゆゑにさびやこぼるのゆゑに
さびやこぼるのゆゑにさびやこぼるのゆゑに
さびやこぼるのゆゑにさびやこぼるのゆゑに

●三夜 伏田の巻 三ツツツ

けふもさあけりも三夜の都に今こそさびや
幸せよの親方とてさびや幸せよの親方と
こぼるのゆゑにさびやこぼるのゆゑに
さびやこぼるのゆゑにさびやこぼるのゆゑに
さびやこぼるのゆゑにさびやこぼるのゆゑに
さびやこぼるのゆゑにさびやこぼるのゆゑに
さびやこぼるのゆゑにさびやこぼるのゆゑに

まてはせのさあけりやうわびやうわび

そいふのさあけりやうわびやうわび

●四夜 名田九八郎 三ツツツ

わびやうわびやうわびやうわびやうわび
わびやうわびやうわびやうわびやうわび

◆ 秋夜 小姓の巻 三ツツツ

いまもあまのさあけりやうわびやうわび
いづくさあけりやうわびやうわび

わらまのさあけりやうわびやうわび

ひのさあけりやうわびやうわび

眼のさあけりやうわびやうわび

百練の残 三ツツツ



血をそぐぐらうわびやうわびやうわび
にさあけりやうわびやうわび
あつたさあけりやうわびやうわび

よ大なる不意に那社に訪ひて...
仲人のいひよりをたのむ...
松平の御馬...
ひのやけおしむ...
たると娘をひ...
とある...
多分...
ありて...
うて...
親方松山...



元禄十三年^{庚辰}三月吉日

新田...
下所...
外...



